

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 川越市立鯨井中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容



- 期 日 : 平成30年11月20日 (火)
- ク ラ ス : 2年1組 (38名)、2年2組 (37名)
- オリンピアン : 野村 智宏 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通してオリンピックについて学び、知ってほしいと授業の目的を確認。
- ・準備体操を行った後、2つの「頭と体を使う連動」を実施。
 - 1)肩を触りながら腕を交互に「上、前、横、下」にすばやく真直ぐにテンポ良く伸ばす運動。
 - 2)リズムに合わせて、手拍子、右手を前に出す、手拍子、左手を前に出す、手拍子、両手を前に出す、手拍子3回を繰り返した後、2人1組でも実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・ボール取り競争を1組は4回、2組は3回、6班対抗で実施。
勝敗は大切だが、結果だけでなく、頭で考えながら皆で協力し、一生懸命頑張ったということが大切である。負けたとしても、相手を称え、「勝てるように次はもっと頑張ろう」と考えることが重要であると伝えた。
- ・手つなぎだるまさんが転んだを実施。

4. まとめ



- ・作戦を確認した後、皆で考え、工夫し、それを共有し、お互いを信じて協力したからこそ、達成できた。これはオリンピアンだけではなく、皆も当たり前のように取り組んでいる。成功や失敗もあるかもしれないが、仲間がいるからこそできることであり、一人でも欠けたら、何もなかったら、クラスとして成功することはできなかった。これは皆にも大切なことであり、皆が実践できれば学校行事等も成功する。座学の時間ではそれがオリンピックバリューにつながっていくことについて話すと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・アトランタ大会の映像を見せながら自己紹介と競技について話し、オリンピックシンボルやクーベルタンについて説明。
- ・普段知らないうちに実践していることがオリンピックバリューに結び付き、卓越した選手(人)になることができる。東京2020大会はオリンピックをより近くで感じられる機会であり、積極的に関わってほしいと話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 1組発問：合唱祭を振り返り意識したこと、頑張ったことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 発表：放課後の練習、努力、全力で練習をした(エクセレンス)。皆で協力して声を出した、それぞれ課題点や改善方法を話し合った、アドバイスを送りあった(フレンドシップ)。隣のクラスが勝った時に拍手、他のクラスの良いところを尊敬し分析、パートナーに感謝(リスペクト)。
- 2組発問：体育祭を振り返り、なぜ優勝できたのか、意識したことや頑張ったことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 発表：工夫して練習、日々の練習の積み重ね、クラスで団結(エクセレンス)。相談、声を掛け合った、クラスでの協力(フレンドシップ)。他のクラスの良いところを探す、お互いを認め合った、信頼関係(リスペクト)。

4. まとめ



- ・日常生活の中で苦手なことや未経験のことは必ず出てるが、それに取り組むことで新しい景色が見えることもある。最初は陸上競技に興味はなかったが、走高跳を始めたことでさまざまな大会で経験を積みオリンピックに出場することができた。挑戦するきっかけはどこに落ちているかわからず、大学生や社会人になってから夢に出会うことがあるかもしれない。初めてのことはどんどん挑戦し、その上で続けるかどうかを判断すればいい。挑戦してみるという価値が大切であり、それが将来のきっかけつくりになることを頭に入れて、今後の人生を歩んでほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 修了証贈呈

